

仏様のおはなし新シリーズ第75集 その2 「ご法事」

三回忌のご法事をお勤めした時のことです。施主の方は三〇代後半の男性でした。

お勤めした後にお尋ねがありました。『あのおー、三回忌が終わりましたけど、次はどうなるのでしょうか?』…『次は、七回忌になります。』とお答えすると、『はあーなるほどですね。…その先もあるんですか?』ありますよ。十三回忌、十七回忌、二十五回忌、三十三回忌、五十回忌と続きますよ。』とお答えすると今度は、『あのおー、法事はそんなにしないといけないものなのですか?』と…

若い方だけにストレートな質問だなあと思いました。いや、私の方も法事をお勤めする意味とかをしつかりと伝えていなかったなあと反省しました。

一息おいて、私の方から尋ねました。『貴方、今日はお父さまの三回忌だったけれども、ちゃんと手を合わせましたか?』と聞くと、『はい。』と返事されました。『それじゃー、お念仏しましたか?』と聞きますと、これも『はい。』とご返事されました。

そのお答えを聞いて、『手を合わせすことも、お念仏申すことも簡単なことだけれども、これがなかなかできないもんねえ。』と言うと、『そうですね。』と。

『今日は、なかなか合わさらない手が合わさって、なかなか口から出てこないお念仏が出たということは、これは、貴方ひとりの力でできたんじゃないんですよ。お父様の三回忌のご法事だったけど、お父様が仏さまとしてのお仕事をちゃんと下さった証しなんですよ。』と言うと、何か納得のいかないような怪訝そうな表情でしたが、しばらく

して、改めてご尊前に向かい、合掌お念仏され

『今日は、父の三回忌のご法事、有難うございました。』とご挨拶され、お帰りになりました。

故人が仏さまに成られたという事実が、私の上には仏法として働いて下さっているのです。『貴方も、お念仏申し、必ず仏に生まれておくれよ。』と絶えず呼びかけて下さっていたのです。忙しくて手を合わせることもお念仏申すこともままならない私に、仏さまが「ご法事」として尊いご法縁をプレゼントして下さいました。

